

# モード Mode Mode は語る

中野 香織

今年はファッションデザイナーに焦点を当てた巡回展が豊作で、ガブリエル・シャネル展に続き、開催中のマリー・クワント展、21日開幕のクリスチャン・ディオール展と盛り上がりを見せる。

ディオール展は「夢のクチュリエ」というタイトルの表現そのままに、夢心地の世界に観客を誘い込む。一体一体が構築的で、デザイナーの芸術的想像力と職人の高度な技術が融合したアートピースが、鏡と照明の効果を幻想的に生かした空間でドラマチックに「立ち」並ぶ。

ディオールの一部ドレスは、マネキンなしで、文字通り「立って」いる。彼が



ディオール展では、鏡と照明の効果で幻想的な空間にドレスが並ぶ

## 装いの思想と時代のうねり

考えた女性の美の理想形が表現されているため、女性は完成された「型」に入ると完璧な美のバランスを体現できるというわけだ。

一方、「男が考える女の理想」の型にはめられるのを嫌ったのがシャネルだった。シャネルの服は服だけで立つことはない。中に入る女性が着て服の美しさが立ち現れ、女性の自由でくつろいだ動きを支援するように作られている。1920年代、ファッションで女性解放を進めたシャネルは、50年代にディオールが女性を男性目線で「女性らしく」するファッションを流行させたのを見て、怒りのあま

### デザイナー巡回展が豊作

り71歳で再デビュー。男性視点の女性美よりむしろ自立した女性の活動を助ける機能美を追求し、第二次黄金期を迎える。

一方、権威であるパリモードをあっさり無視してミニスカートで革命を起こしたのが60年代ロンドンのマリー・クワントだった。シャネルが「醜い」とみなし女性の膝を、クワントは大胆に出し、ミニスカートを世界的に流行させた。クワントの服は、大量生産を意図したシンプルなデザインだが、走るとき、飛び跳ねるときに躍動美が立ち現れる。

それぞれのデザイナーが時代のうねりのなかで影響しあい、自由で情熱的な創造によって人々の装いを、ひいては行動を変え、社会を変えていった。暴動もデモもなく革命を起こしてきたファッションの力を、回顧展を振り返り思い知る。